

容器法改正対策委員会 2019年度活動報告

2020年6月17日(水)

紙製容器包装リサイクル推進協議会

産業構造審議会(10月31日)

- 産業構造審議会において、再商品化義務量の算定に係る量、比率等の説明の後、資源有効利用促進法に基づく、**識別表示のサイズの縮小等**（**スチール缶、アルミ缶、PET製容器の識別表示を、紙製容器包装の識別表示と寸法を同一にすること**）について、審議されました。

➤ 識別表示サイズの縮小等に賛同

- ・当推進協議会は、容り法改正対策委員会(書面審議)で検討の上、以下のように発言しました。
『スチール缶、アルミ缶、PET製容器の識別表示を紙製容器包装の識別表示と寸法を同一にするということについては、現在、当推進協議会も特に問題無いと考えていますので賛同させていただきます。』

▶当推進協議会「提言」の確認 ①

尚、紙製容器包装の識別表示につきましては、前回の合同審議会において、古紙ルート「雑がみ」分類で収集を実施する市町村の拡大及び紙製容器包装の回収量拡大のために、紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言しています。

▶当推進協議会「提言」の確認 ②

「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」における分別排出の考えられる施策の例として、「市民にわかりやすいプラスチック製容器包装の識別表示や紙製容器包装の回収量の拡大の観点からの識別表示の検討を引き続き行うべきである。」と課題として取り上げられていますので、引き続きご検討をよろしくお願いいたします。』と産構審にて委員として発言しました。

➤ レジ袋有料化決定(2020年7月施行) ①

- 昨年決定された「プラスチック資源循環戦略」の重点戦略であるリデュースの取り組みとして、レジ袋の有料化義務化の促進に関して、産構審・中環審の合同会議が開催されました。
- 容器包装リサイクル法の枠組みを基本としつつ、省令の見直し等を通じて有料化義務化を迅速に実施し国民的理解を醸成していくとともに、消費者のライフスタイル変革を促していくこととなりました。

➤ レジ袋有料化決定(2020年7月施行) ②

- 11月の第3回合同会議ではプラスチック資源循環の観点から対象を化石資源由来のワンウェイプラスチック製買い物袋とし、施行当初は配合率25%以上のバイオマスプラスチック製や、50 μ m以上の厚みの繰り返し使用可能なもの及び海洋生分解性の買い物袋は対象外としました。
- パブリックコメント後、第4回合同会議が開催され、省令改正にて2020年7月施行となりました。

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA) 入会

- 経済産業省資源循環経済課の要請を受けて、クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)に2020年2月に入会しました。
- CLOMAでの取り組みは、容器包装リサイクル制度の枠組み見直しにつながる可能性もあり、「プラスチックから紙、バイオマスプラスチック等の再生可能資源への適切な代替の促進」等、直接係る部分もあることから参加することとしました。

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA) 入会

- 海洋プラスチックごみ問題を解決するためにアクションプランの作成を目指しており、Key action 5の「紙・セルロース素材の開発・利用」におけるテーマ2の「未利用の紙系廃棄物、複合素材廃棄物のリサイクル」について討議に参加しました。
- Key actionから実証テストを実施することで潜在する課題を抽出し、第2フェーズの制度要望・社会システム提案・アジア展開と進んでいきます。

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA) 入会

- Key action 5からの実証テスト計画として、
 - ① 紙・プラスチック複合容器用破碎・洗浄機の
検証
 - ② ポリラミ紙等から効率よくパルプを取り出す
手法の開発
 - ③ 液体容器に多用されるアルミ付きポリラミ紙
から発生するアルミ付きプラスチックの処理
方法の技術開発が検討されています。

➤ 国内の古紙リサイクルを巡る課題

- 経産省素材産業課の国際的な資源循環を巡る外部環境による調査（国内の古紙リサイクルを巡る課題について）検討会に委員として参加しました。
- 2021～2025年度における古紙利用率の目標設定をメインテーマに、海洋プラスチックごみ問題や古紙リサイクルの課題について討議しました。
（第2回検討会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

中国の廃棄物輸入規制の動き

- 2018年1月より、紙製容器包装あるいは雑がみを含む「その他古紙」については、**中国への輸出が禁止**となりました。
- 更に**2021年の1月**には、**段ボールをはじめとした古紙全般を輸入禁止**とするとみられるのに加え、**新型コロナウイルス感染拡大の影響が響き、在庫増大・景気後退**など、今後とも更に予断を許さない状況が続くと考えられ、今後の動向にも注目する必要があります。

「自主行動計画2020」

＜ 自主行動計画2020 ＞

- 環境に配慮した3Rの推進や主体間の連携に資する取り組みの一層の充実を図る
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会の目標及び3年目にあたる2018年度実績
 - ① リデュースの数値目標(14%)に対して11.0%
 - ② 回収率の数値目標(28%)に対して27.0%

容り改正対策委員会 2019年度活動報告

完